

平成 29 年度 福島県労働保健センター研究助成 報告書

研究課題名 「原発事故後における甲状腺スクリーニングとメンタルヘルス」

研究代表者 緑川早苗(福島県立医科大学 放射線健康管理学講座)

研究協力者 大津留晶(福島県立医科大学 放射線健康管理学講座)

村上道夫(福島県立医科大学 健康リスクコミュニケーション学講座)

背景と目的

スクリーニングは対象疾患の疫学的知見、自然史、診断治療法、社会経済状況などが、それぞれの条件を満たしている場合に、メリットとデメリットを検討したうえで行うものである(Gray ら、スクリーニング 2007)。一方、チェルノブイリ原発事故後の甲状腺癌増加の知見から、原発事故後の福島でも、甲状腺癌は最も懸念される健康影響であると考えられた。そのため混乱した状況の中、子供たちの健康を見守る目的で甲状腺検査は開始された。原発事故後の特殊な社会状況の中、超音波を用いて甲状腺がんのスクリーニングを行う検査が、不安やリスク認知や検査への理解などを通して住民のメンタルヘルスにどのような影響を与えたかを明らかにすることを旨とする。これらは今後の甲状腺スクリーニングのよりよい方法論の議論に重要であると考えられる。

研究内容

甲状腺検査に関連した住民とのコミュニケーションを目的として行われている出前授業(小学生・中学生・高校生に対する甲状腺検査についての授業)と出張説明会(検査対象者の保護者や地域住民に対する甲状腺検査の説明)への参加者にアンケート調査を行い、受講前後の不安の変化、放射線と健康リスクの考え方や甲状腺検査に対する科学的認知度の変化、受診の意思決定に関する因子を検討する。また甲状腺検査の受診者とその家族に行っている結果説明の場(説明ブース)で、検査受診者に対し、検査結果に対する不安度、甲状腺疾患に対する理解度、放射線に関するリスク認知とメンタルヘルスに与える影響を検討する。

結果報告

上記の研究結果の一部については以下の論文あるいは著書に報告した。

- 1) Midorikawa et al., Psychosocial issues related to thyroid examination after a radiation disaster. *Asia Pacific J of Public Health*. 2017;29(2S):63S-73S.
- 2) Midorikawa S et al. Psychosocial impact on the thyroid examination of the Fukushima Health Management Survey. In: Yamashita S, Thomas G, eds. *Thyroid cancer and nuclear accidents: long-term after-effects of Chernobyl and Fukushima*. 1st ed. Academic Press, Elsevier, 2017.
- 3) 前田正治 緑川早苗 後藤沙織 福島第一原発事故とその心理社会的影響 公衆衛生第 81 巻 第 4 号 315-319 2017

受診の意思決定に関する要因解析のためのアンケート結果を、現在解析中であり論文投稿を予定している。